



年間献血者数が2006年に初めて500万人を割り、献血協力者は国民の4%弱と限られた現状のなか、特に若者の献血離れが進む。日本赤十字社は若い世代へのPRに力を入れるほか、夏期休暇などで献血者数が落ち込みがちな7月を「愛の血液助け合い運動」月間として協力を求めている。(野村由美子)

若者の献血呼び戻せ

「親類が血液の病気で世話になったから、お返しに」。愛知県の県血液センターで献血を終えた女性(西)は献血にきた理由をそう話す。回数は百回を超える。「健康だからこそ続けられるし、すぐにできるボランティアだから」

実は全人口に対する献血者は二〇〇六年度で3.9%しかない。「協力してくれるのが同じ方ばかりなのが現状」と日本赤十字社の大田貴広さん。若者の献血関心度調査(厚生労働省)

日本赤十字社 PR活動に力

献血方法別の主な採血基準

	成分献血		全血献血	
	血漿成分献血	血小板成分献血	200ミリリットル献血	400ミリリットル献血
1回献血量	300ミリリットル~600ミリリットル(体重別)	400ミリリットル以下	200ミリリットル	400ミリリットル
年齢	18~69歳※	18~54歳	16~69歳※	18~69歳※
体重	男性45キログラム以上・女性40キログラム以上		50キログラム以上	
最高血圧	90以上			

(ほかに血液比重、年間献血回数などの基準がある)
※65歳以上は60~64歳の間に献血経験がある人に限る

は、四人に一人が「献血について知らない」だった。輸血用血液製剤には有効期限が短いものもあり、過不足なく継続的な献血者数は

の確保は不可欠。しかし春、夏、年末年始と学校や企業の休暇に合わせ、献血者数は落ち込む傾向がある。少子高齢化や、海外渡航歴による献血制限の対象者の増加も、献血者を減らす要因になっている。



大学生が「連盟」自ら啓発

の献血者を全体の33%から40%へ上げる目標を立てた。

献血の呼びかけを裏面に載せた紙専用のコピー機を全国の大学生協に無料設置したり、自動車教習所で広報映像を流したりすることも計画する。期待されるのは若者自身による献血啓発運動だ。各県で大学の有志が学生献血連盟をつくり、血液センターが支援する。

深刻なのは若い世代の減少。輸血を受ける側は八割以上が五十歳以上で若者には関心が低くなりがち。以前盛んだった高校での集団献血は、四百リットル献血(十八歳以上)需要が高まり、

〇〇年以降ほとんどなくなった。「十代で献血経験がある人はその後も抵抗なく協力してくれるのですが」と大田さんは残念がる。

日本赤十字社は〇五年度から五年計画で十、二十代

◆献血するには 各地の献血センターや駅前などの献血ルーム、献血バス(全血)表参照(のみ)を訪ねる。まずは問診票を記入し体調や注射、服薬歴、病歴、海外渡航歴などの質問に答える。医師の問診も受ける。「安全性検査だけでは検出できないウイルス混入などを問診を使って防ぐ」と大田さん。その後血

圧を測り、二ミリの血液を採り、成分量などを調べらる。

成分献血は、抜いた血液から必要成分だけを抽出して、また残りを体内に戻すため、四十一~九十分の時間が掛かる。全血より体への負担は軽いという。献血後はジュースやお菓子で水分補給と休憩を取ってもらって終了。

16歳の誕生日 献血デビュー

高校生 内藤 大喜

(奈良市 16)

僕はずっと、この日を待っていました。献血ができるようになる16歳の誕生日です。

小さい頃から、母や祖母の献血についていきました。当時は注射が大嫌いだっただので、なぜ献血するのか不思議でした。しかし、ついでにいくうちに、自然に思うようになりました。自分の血液で

誰かが助かる。助けてあげられたら、と。

初めての献血ルームはうれしい半面、少し緊張もありました。しかし、看護師さんが優しく声をかけてくれて、リラックスできました。

おととしまでは高校に献血センターの方が来られて献血できたそうです。移動献血車が学校や役所、スーパーなどに定期的に来てくれたら、献血する人はもっと増えるのではないでしょうか。

健康な体に感謝しつつ、これからもずっと献血していききたいと思えます。献血デビューした16歳の誕生日。一生忘れられない大切な日になりました。